

トビウオ通信 (4月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 16 年度上半期浮魚中長期漁況予報》

平成 16 年 3 月に長崎市において、東シナ海～日本海西南海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）の長期漁況予報会議が開催されました。今月は会議内容をもとに、平成 16 年度前期（4～9月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

漁況（来遊）予報（H16年4月～9月）

マアジ：前年を上回る

ウルメイワシ：前年並み

マサバ：前年並み（低調）

マイワシ：極めて少ない

カタクチイワシ：前年並み

マアジ資源は増加傾向！！

平成 15 年の東シナ海～日本海西南海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は 5 万 5 千トンで、2 年連続して漁獲量が増加しました。これは平成 13 年の漁獲量の約 2 倍であり、マアジの資源状態が上向していることが推測されます。（図 1 参照）

また、春に漁獲の中心となる 1 歳魚（平成 15 年生まれ）の資源水準が高いことから、春から初夏にかけて昨年を上回る漁獲が期待されます。

マサバ資源は低調で前年並み

平成 15 年の東シナ海～日本海西南海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は 4 万 2 千トンで、前年を 2 千トン上回りました。しかし、平成 12 年以降漁獲量は低位横

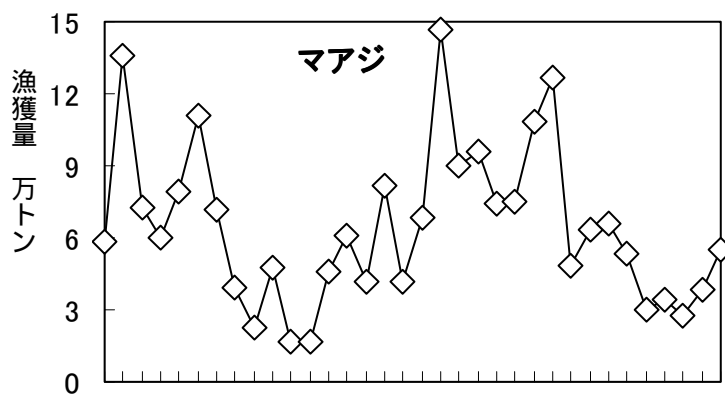


図 1 東シナ海における大中型まき網によるマアジ漁獲量

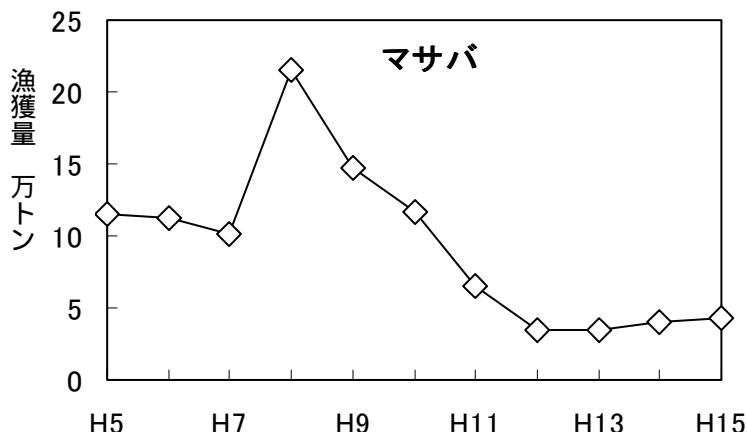


図 2 東シナ海における大中型まき網によるマサバ漁獲量

この状態であり、資源水準は依然として低い状態です。(図2参照)

春に漁獲の中心となる1歳魚(平成15年生まれ)の資源水準も前年並みと予想されており、漁模様は低調のまま推移すると思われます。

カタクチイワシの資源状態は前年並みも、春の漁模様には不安あり

平成15年の島根県の中型まき網(浜田・隠岐)によるカタクチイワシの漁獲量は1万4千トンで、平成13年に2,370トンを記録して以降、2年連続の増加となりました。(図3参照)

平成15年の春季、秋季生まれの稚魚の資源状態は、平成14年の水準を上回っていると推測されており、前年並みかやや上回る漁が期待されます。しかし、本年の1~4月の浜田港における漁獲動向をみると前年の約15%にとどまっており、今後に不安の残る結果となりました。

ウルメイワシは前年を下回る

平成15年の島根県の中型まき網(浜田・隠岐)によるウルメイワシの漁獲量は3,500トンで、前年を約10%下回る結果となりました。(図3参照)

平成15年生まれの稚魚の資源状態は、前年より低水準と推測されており、春以降の漁獲もあまり期待できないと思われます。実際、本年の1~4月の浜田港における漁獲動向をみると、1~3月では過去6年間で最高の漁獲量となったものの、4月はほとんど漁獲されませんでした。

マイワシ依然として極めて低水準

マイワシは平成13年以降、島根県の中型まき網(浜田・隠岐)では、ほとんど漁獲されておらず、資源状態は依然として極めて低水準であります。(図3参照)

平成15年3~6月に島根県が実施した卵稚仔調査でも、マイワシの卵及び稚仔魚は全く確認されておらず、資源状態が急速に回復する可能性は低いと考えられます。

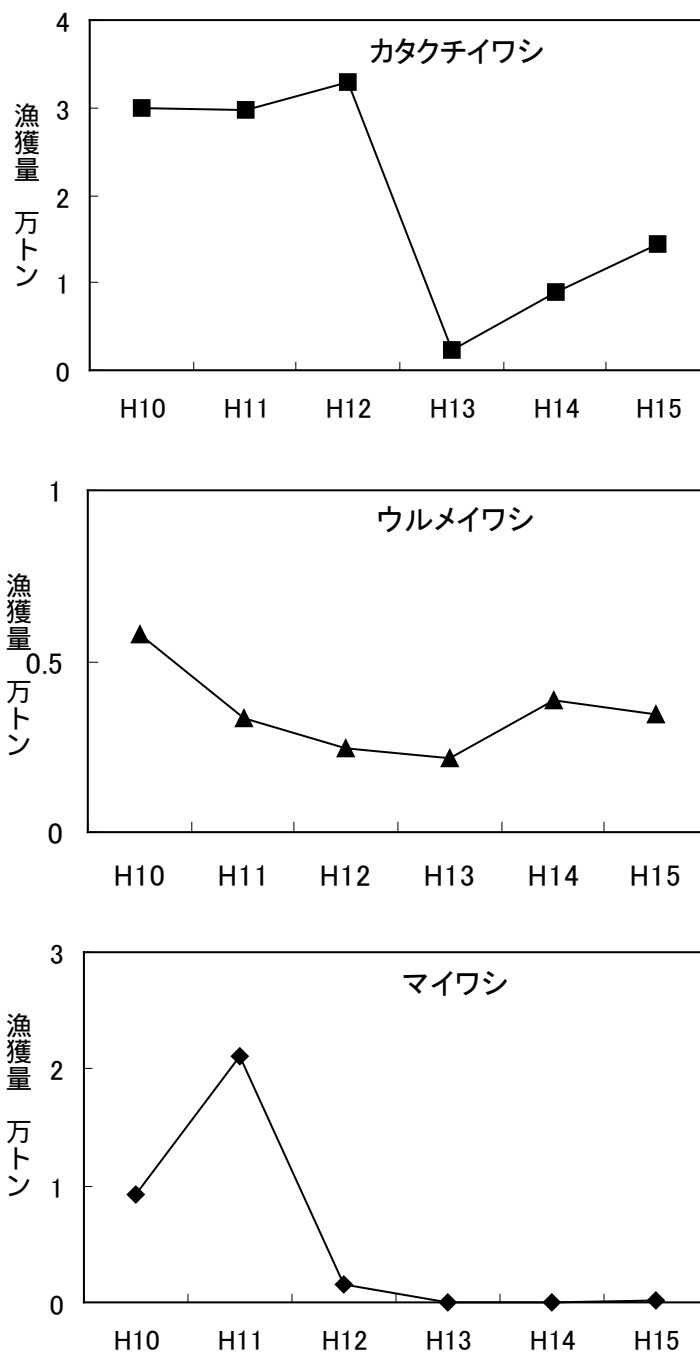
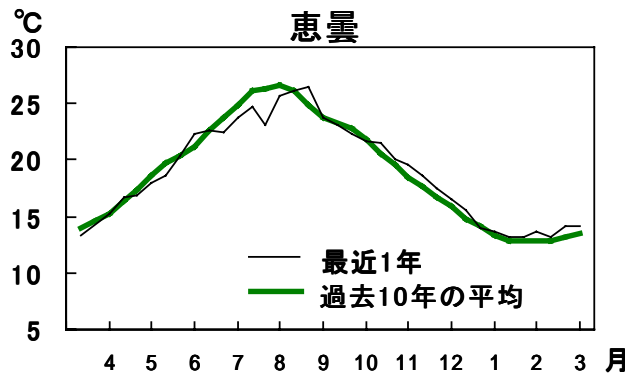
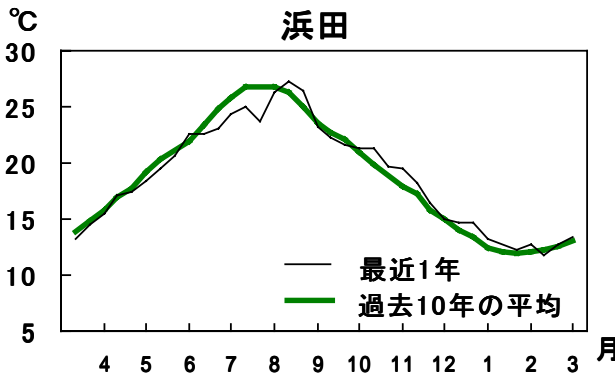


図3 島根県中型まき網(浜田・隠岐)によるイワシ類の漁獲量

《 3月の海況 》

3月	月平均	平年差	評価
浜田	12.7	±0	平年並み
恵曇	13.8	+0.6	やや高め

3月上旬には浜田で9.4、恵曇で12.2と、共にこの冬の最低水温を記録しました。中旬以降は上昇に転じました。先月と比較し、浜田では0.1、恵曇では0.5上昇しました。



島根・鳥取・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(4/5～4/9)によると、各層の水温は、表層(0m)が10.5～15.5(平年差は-0.5～+1.9)、中層(50m)が8.8～15.2(平年差は-0.8～+2.8)、底層(100m)が4.4～15.0(平年差は-2.1～+4.3)となっていました。沿岸域の水温は先月より約1℃上昇し14前後となり、島根県西部～山口県沖では平年より高めとなりました。中、底層では、5つの冷水域が見られ、各冷水域間の海域では平年水温を上回るという複雑な海況となりました。

先月、島根県沖に見られた冷水域の勢力が弱まり、今月は島根県沖と山口県沖の2つの冷水域に分離し、沖側に後退する形となりました。また隠岐諸島周辺では、北と南東海域に冷水域が見られています。これは山陰・若狭沖冷水域の接岸に伴うもので、昨年と同様の傾向となっていますが、沿岸域の水温は13以上あり、平年より高めとなっています。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「平年並み～かなり高め」、中層では「やや低め～はなはだ高め」、底層では「かなり低め～かなり高め」となっています。

《 3月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ、サバ類主体に1,235トン、総水揚金額は5,871万円でした。1統当りの漁獲量は412トンで、平年(過去5カ年平均)の108%、前年の151%でした。水揚金額は1,957万円で、平年の108%、前年の123%でした。西郷では、マアジ主体に総漁獲量2,271トン、総水揚金額は1億849万円でした。1統当りの漁獲量は757トンで、平年の91%、前年の90%となりました。水揚金額は3,616万円で平年の116%、前年の123%となりました。浦郷ではマアジ主体で、総漁獲量1,630トン、総水揚金額は7,441万円でした。1統当りの漁獲量は406トンで、平年の151%、前年の114%となりました。水揚金額は1,860万円で平年の141%、前年の93%となりました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に285トンで、平年(過去5カ年平均)の178%、前年の84%でした。西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に37トンで、平年の143%、前年の59%となりました。いずれも漁獲が好調であった前年を下回ったものの、平年の約1.5倍の水揚となりました。浜田に水揚げされたスルメイカは20入りが主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港では量では7%、金額では15%前年を上回りました。漁獲の主体は、イボダイ、ケンサキイカ、スルメイカ、マアジで、これらの漁獲は前年を上回っていました。一方カレイ類が不調で、ムシガレイでは前年の42%(量)58%(金額)、ヤナギムシガレイは前年の77%(量)64%(金額)に留まりました。

恵曇港では、総漁獲量は前年を14%、総水揚金額は26%下回りました。1統当たりで見ると、前年に比べ漁獲量で15%上回りましたが、金額では1%下回りました。カレイ類では、ムシガレイが前年を上回り、量で1.6倍、金額で2.0倍の伸びとなりました。アカガレイは当月の漁獲量の44%を占めました。量で前年の90%、金額で68%に留まりました。

【小型底びき網漁業】

和江、大田市漁協では漁獲量は前年並みであったものの、水揚金額はそれぞれ8%、24%増加しました。両漁協ともアカガレイの漁獲は、量・金額とも前年の約20%と大きく落ち込みました。和江漁協ではソウハチ、ニギス、アンコウ、ヒレグロ、ムシガレイが主に漁獲されています。大田市漁協ではニギス、ソウハチ、ムシガレイが主に漁獲されています。またハタハタは前年の10分の1以下と、2月に引き続き低調な漁獲となっています。

【定量網漁業】

各地区とも漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回り、特に県西部と隠岐では前年の5割以下の漁獲量となっています。県東部ではカタクチイワシが主体で、前年の約5倍の漁獲量となっています。その他ではヤリイカ、マアジなどが漁獲されています。県西部ではマアジ主体にカタクチイワシ、ヤリイカが漁獲されています。隠岐ではスルメイカが主体ですが、前年の約1/3の漁獲量となっています。その他ではヤリイカ、マアジなどが漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに平年並で、前年を大きく上回りました。県西部では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回っています。隠岐では漁獲量は前年を下回りましたが、水揚金額は前年を上回っています。また、漁獲量・水揚金額ともに平年を上回りました。県東部ではスズキ、ヤリイカが主体で、スズキは前年の約2倍、ヤリイカは約3倍の漁獲量となっています。県西部ではメダイが主体で、その他ではブリ、スルメイカ、マアジなどが漁獲されています。ブリは前年の約3倍、マアジは約2倍の漁獲量となっています。隠岐ではメダイ、スルメイカが主体ですが、メダイは前年の約1/2の漁獲量となっています。その他ではカサゴ・メバル類、キダイ、マダイなどが漁獲されています。

漁獲統計

平成16年3月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	39	カタクチイワシ・マアジ	31.7ト	1,235ト
	西郷	51	マアジ・ウルメイワシ・カタクチイワシ	44.5ト	2,271ト
	浦郷	50	マアジ・ウルメイワシ	32.6ト	1,630ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	548	スルメイカ	520Kg	285ト
	西郷	192	スルメイカ	193Kg	37ト
沖底	浜田	36	ケンサキイカ・イボダイ	11.6ト	419ト
	恵曇	27	アカガレイ	5.6ト	151ト
小底	大田市	319	ニギス・ソウハチ	579Kg	185ト
	和江	429	ソウハチ	659Kg	283ト
定置網	浜田	6	マアジ、スズキ、ヤリイカ	169Kg	1.0ト
	美保関	135	カタクチイワシ、マアジ、ヤリイカ	322Kg	43.5ト
	浦郷	109	スルメイカ、ヤリイカ、マアジ	331Kg	36.0ト
釣・縄	浜田	1226	メダイ、ブリ、マアジ	24Kg	28.9ト
	五十猛	294	メダイ、カサゴ・メバル類、スルメイカ	27Kg	7.8ト

: 1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。